

シリーズ④

PTAに対する想いを聞いちゃいました

PTA奉仕作業
(運動会のテント設営)

西方小学校のPTAは、誇るべき自慢の組織で、協力的かつ建設的な方々ばかりです。そのことを改めて実感したのは、今年度実施した創立一五〇周年記念事業を共に作り上げる過程です。学校だけではなかなか手が回らない航空写真撮影の手配や記念リーフレット作成等に伴う緻密な計画、田んぼアートの依頼や保護者や地域の方々への協賛金の呼び掛けに至るまで、驚異的なスピードと完成度で仕上げていただきました。10月には無事に式典を開催することができ、その様子は新聞などのメディアにも取り上げていただきました。

ともに育む
栃木市立西方小学校長
小倉 寛史

また、コロナ禍で活動が制約され、なかなか実施できなかった奉仕作業や学年PTA行事等、緩和されるや圧倒的な熱量で活動していただきました。このように一年を通して学校と保護者が共に活動し、様々な面で支えてくださることで、西方小の子どもたちは健やかに育まれています。これからもPTAの皆様としっかりと連携し、西方の未来を創造していきたいと思います。

ニューノーマルなPTA

鹿沼市立北小学校PTA会長

金子 慎吾



本年度は万人にとって一陽来復の年でした。新型コロナの分類が引き下げられた5月、私はPTAのスローガンとして「ニューノーマル」を掲げました。漫然と「常態」に戻るのではコロナ禍を経験した意味がない。停滞と後悔を血肉にしなければ。より創意がされ、より進化した「新常态ニューノーマル」を築こうと言う決意表明でした。

先ずは、総会・役員会・委員会などのあらゆる会議を対面形式に戻しました。書面形式を継続している団体等もありますが、「ノンバーバルな挙動が読み取れる」「人間関係を築ける」「新しいアイデアを生みやすい」など負担軽減を上回る利点があり、何よりPTAが児童を中心とした保護者と教職員の信頼関係を土台に成り立つことを考えれば、対面会議に代替し得るものは皆無と言えるでしょう。



学年委員会が主催した親子福祉体験

次は委員会活動。広報・生活指導・施設改善等の専門委員会ごとの活動と、児童の発達段階や学習状況に応じて学年ごとに企画する体験授業を再開。時勢柄、外部講師料等が、よりコスト高という課題に直面した変更に、地域人材の活用、柔軟な予算対応などの工夫で乗り越え、かつ新味も加えられました。

学校保健委員会の再開に当たっては、児童と保護者によるグループでテーマに沿って意見交換する形に趣向を変え、子どもたちの豊かな成長に「良質の大人」との豊かな成長に「肝要である今の時代：こう言ったらスタイルは他の活動や授業にも取り入れていくべきです」。

授業参観後に学年ごとの懇談会を開催することも提案。「特に議題がないのでは？」との意見も出ましたが、子どもたちの未来の姿を論じるに議題や資料など必要ありません。フリースタイルの懇談会より、フリートークの方が保護者も気軽に参加できるでしょう。

しかし一方で、3年余り活動制限を余儀なくされていたので、周囲のモチベーション低下は否めません。

就学時健診で新入児童の保護者へのPTAの説明を定例化したのも、より主体的にコミットしてもらいたいという思いから。持続性を考えれば負担軽減はもつともな理屈ですが、大人の都合のみを優先して「まんなか」の子どもたちがなおざりになつては主客転倒。改善とは縮小・省力化だけにあらず、実効性が高まるものでなくてはなりません。

そして、学校が地域の要であるべき現代、学校のステークホルダーは保護者だけに留まりません。PTAは存続していくでしょうが、私たちの「PTAに対する想い」そのバックグラウンドには地域が映されているなければなりません。それこそが私たちが向かうべき「ニューノーマル」です。

辰年の本年、私たちの北小は創立90周年を迎えます。地域の様々な世代が交流できる祝祭やかつて活況を呈したバザーのリニューアル、地域の名所を紹介する媒体づくりなどなど、やりたいことは枚挙に遑がありません。次の一〇〇周年に向けて龍のように昇り続ける、そんな勢いのある年にしたいです。

